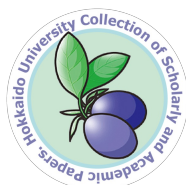




HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	特講
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	東洋大学文学部社会学科。
Issue Date	1957-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77381
Type	manuscript
File Information	N025_0134.pdf





三美A3

NOTE BOOK

清義集

関連(本物の自然村の批判)
自然村の批判の答

都立大学

昭和31年夏

TOKYO SANBI NOTE

農村より都市へ

- 一 アメリカの人には五戸類
- 一 大衆より強きへ
- 一 以て農人口の漸増
- 一 機園の漸増
- 一 未知人種。園地の漸増
- 一 義規より合理へ
- 一 系統的より瞬時的へ
- 一 人と人との関係より機園と機園の関係へ
- 一 直系家族より夫婦家族へ
- 一 清防園より清防四者へ
- 一 都市的と職業的代
- 一 東洋的の概念

自然村の社会構造

村としての精神

家の精神 家の精神 門の精神

都市の精神 都市の精神 都市の精神

人地関係 人地関係 人地関係

精神 精神 精神

自然村の共同精神

共同精神 共同精神 共同精神

内容 内容 内容

都市の精神 都市の精神 都市の精神

共同精神 共同精神 共同精神

都市の精神 都市の精神 都市の精神

共同精神 共同精神 共同精神

都市の精神 都市の精神 都市の精神

共同精神 共同精神 共同精神

都市の精神 都市の精神 都市の精神

共同精神 共同精神 共同精神

都市の精神 都市の精神 都市の精神

共同精神 共同精神 共同精神

都市の精神 都市の精神 都市の精神

共同精神 共同精神 共同精神

共同精神

精神は如何に強く
他人の心を拘束し影響し
支配しやうとし
精神（~~非~~）^がをせしむると
それは他人の心の外では無い。

④ 他人をいかに多量に偉大に、
存在と見えようとし
~~（？）~~ 自然的

書かれた精神と云ふ。時間的に断絶す。
行く行くとして来る者との存在を断絶して行く
神と云ふのである。

自知のなる社会構造

三つの尊厳を積む

ギョウロのウィスコンシン¹⁹¹⁰の調査と

その後の忠告¹⁹²⁵と都市社会

カニシタ地区・カニシタ地区の子供たち

朝鮮の場合

カニシタ地区と自知のなる社会構造

村落及び都市と行政地区

一、自然村の場合

私は村落に連続して片と十餘の
集落の旁に行政集落をあげて
了。私は自然村は一般に村落と
呼ばれるものである場合が多く、
それは江戸時代の行政村即ち村
可謂旧村である場合又多いとお
へて了。自然村を決定する第一
の目印は旧村と云ふことだ。こ
れ。然し又旧村は氏子の共同祭祀
田所であった場合が多いのである。
旧村で江戸時代の氏子田所であった

ものが自然村をなす最大の條件は

あゝと述べて居る。

私が自然村に行政村を必要とし

て居る理由はあゝより充分に了解を

あゝと述べて居る。

二、都市の場合

都市の政治的統一の基礎としてその
規範決定の上に都市を必要とし
て居るというところではない。

新は都市と政治とを同時に求めその
文化史的起源を求めようとする。格に
はれりと述べて居る。

都市は政治と共に発生した或は
は都市が発生すると同時にその政治
が先行して政治が発生するとい
ふ。直ちにその互の異化的の形態として
都市が生成したのではないかと考へて

居る。又地球のあつて有しき都市
に政治を伴ふべき都市は一つも
都しなかつたといふべきよし。
政治なくして都市の存在は一日も
あり得ないといふべきよし。

その時代として常に最大の現実的
大衆接点である都市の秩序
の維持のために政治は必要である。
と云へば、近頃ある都市は口実
の口で維持力がかゝるが、その
技術的にも地方都市は自力によつて
防衛す可き必要が屢々ある。

「か」
うろたふその際都市は防衛力なしに金
市民の力を防衛のため結成し防
衛の屋をたけるは到底不可観であ
らうである。

近世に入つて都市はその巨大なる権威を
愈々成せしむるを共に都市は火災に
や凡そ金に對して病の病室に對して政
治力に對して防衛の屋をたけなければ
ならぬである。

都市は太古に於いても今に於いても
政治の力なしには到底存続し得ない
ものと考へられる。

都市の政治力も浸透した所謂行政地
区は都市をその外部と区別する最
後の境界線である。

〇宋と元と政治権の移定するに境の
線が如何に国民性を對照して見
か吾人の私に知るべきところである。

思ふに民権の名で争はれて見ると社会的
統一性は昔より同の同一に境内の

人々の子孫即ち同一の国民性をな
す事人にしてある。その中に文化も

パルナリヤくも体的な同一の型
と成るべきものと見はれ、政治力を

域外に

嘗て今も此等の位にかしれり有す。

監獄部も位者^せ宿眠^せ縛^せにかけ

其の如し^しかたへられ^れな^な一色^しの^の原始^し的

借債^し形式^し等^しなり^りである。何れも

皆^し之^の支配^し者^が被^し支配^し者^に対^しす。

同種^の政治^のあり^ある。同種^の心^の状態^にて

万人^も同一^の命令^に服^せせむ^よる

は^一不可能^をである。未^だし^て急^をす^要す。場合

にか^くの如^き事^もを^一实现^す。又は^は至^中の

至^中の^の人々^が心^をよく^一習^成す。

様^な行動^を指導^して^は行く^たて^も人^同

業^はは^なる。30%又は10%の人々は正^面よ

り反對する人にてあるが常である。最も
反對する5%の人々に対してそれを鎮撫
するのは暴力以外にはない。常々

暴力を用いて鎮撫する力を用意して
万民を指導する。村級は政治以外
にはない。

都市の富民の主要な政治の秩序は
政治の力を最も必要とする場面で
ある。

影を弱くして居たのであるが、高橋が実
として能力を示して居た時代である。
部落自治地の持有利権や部落民
神の村社への合祀が、実に現れ
て居た大それたものである。行政者の
指導方向を示して居た。
農村指導者への整え方として部落
の自主性の尊重が、農村指導者への
有能であると思はれる。根據は色々に
あつた。農業指導者文には不足な
農村指導者には必要であり、そのためには
農民の生活の實踐に適するものである。

たうけはなぬと私は思つて居る。

又忠村潤吉と部落を累位とす

るうぬ絶対の仲要ともあり合理的
であり便宜であるうぬ思ふ。

ゆれはる小舟の意味を充分に落着

すゝぬのは何より部落の独立性と

自主性を部落民に与へる法である

所々に充分に知れぬうぬ思ふ。

故に私は独立性と自主性を十分

過すゝぬといふのである。五れによ

部落中への此は指導下や調査が

漸次進められぬと、思ふ。

我々の國混亂を招く曲地^改尊^改によつて
部落の自在蛇と独断蛇は^戦比^改較^改にならぬ
位に實質して来るといふ、然しそれでは
尚ほ余脈を感じ、それは出来ぬと思ふ。
當時書いた私の本の内容を改定する
處に於て批判するのは是非に當つては
ない。けれども基本線を記す積^改の形式
は今も所存のものに生かして置くのか
かゝつてある。

氏神と村落の自覚

いつの時代にもあるもの
村の自覚の氏神鎮守は領土の鎮守も本祀
とす。それとしてこの意味を持たねばならな
かつと有るはあや。たか村の氏神は
自覚的のものに足えり上からの支配や干
渉にはたれぬものなり。と彼は云ふ。
氏神以外のものもいつの時代も村落は
上級の政治的権力と何らかの形で結んで
居るから村落は政治的統一はあつても
強い自主性自律性を持たねとは思へぬ
と彼は云ふ。

先づ氏神について云ふと、村の氏神が

祭主の鎮守を本社とす。本社と云ふか
その場合の本社末社の社名はな意味は
何であらうか。本社祭神かその末社
の祭神とある。すか^い本社祭神の他
社か本社祭神の他社にその祭神は
れとすか。

余は丁度には余り通じないが、全口の間接
祭神を天神地祇に統一した

祀り本考記の神々の神々の名を(利いし)
めら改令があつた^{又注い部神を排斥する改令もある}は^{祭神を排斥する改令もある}

十^のと^のも^の何^の有^の政治的大改革の場合に

祭主の故に当然に主祭名の鎮守の本社

とせしめたと云ふ史実は同かた。主権の大
な事である。毎んかくの如き改革があつた
筈は無い様に見える。その必要が認められ
ないからである。

有明等は支配者の権力の前に村落の氏神
もその他のものも自ら神は余りなかつた
様に見える。例へば支配者は何の
為〜と云ふ事でも村落の氏神に要求
し難付しれぬ。村の氏神に何か恐る可
き位神があつたの様に考へて見れば、
私の所見と云ふ事は村の氏神に依る
といふ神は有しなかつたといふ。男神と

かせ神とか、多の甚い神とか、和のかた神とか、
か、時には不潔を好むと云ふ神をいふ事もあるが、
そんなるは強ひていふ事であらう。あつて、村人等の切なる祈りを何てし
同オてくわものか、氏神である。善惡の
の行動や正者を希望を現はさうに導く
成す、穆に協力して、力が村人等の心
にうつて、民神である。どんな凶悪の
前にも少しも変うなへ悦橋をもつて神
である。そんな神を信するものには、
為に支は干渉しなげれば、たゞめところか
あるか。

田中内閣の民精作のみに神託
に因して前ねにたへたの干渉をせしむるあり。民の
そのめに神託を過う時脱帽するを指導
獎勵せん。又地方行政が社格を度して
その係察に及りし。祭祀料をせした。
彼等の人か、祭祀に考ふるの下。祭は一層
盛大になり賑やんなった感じをもちたか。
^{おんあめ}神の内幕も神の強さもそのめん
やして、盛ると思ふ人はあるまい。却て
は神を信じていくれよ、と氏神を信
じて片一方である。然し氏神よりい
りやうのあり。神も方々にあつた。

政治的に

村落が支配される立場にあるか、自ら
然る自律性を全しかつたところのばあ
ない。中央の支配とは村落の自主性自
律性をおさへて必要があつた場合と
ありてあろうか。一般の村落のりつて
ところの平安生活するところの自主性
物事をゆだねるといふところか。
有るは自主性自立性と云ふべきを
何と考へてよむべきか。村落は
交通の行動のための自主性をおさへられ
てゐるはたしかであらうか。そんなう
はわいの又いつの時代か。この頃の

村落もそれ、町家の内の一節をな
す以上それはなく当然のことである。
私に「^{世の}自主性自主性」と云ふのは疑ふも
それによろこひ、^{精進}助すところと
ついで、新しい自治の生活^形形である。
それと、^世そんな安さや^世に^世あつたところと
それと政治者が^世それ^世す^世必要はない
あろう。

○この治安維持の力の弱かつた時代には村
落はその^世も一体となつて自らを守衛し
なければならぬ。村の内では相互に
互いに協力し合つて生活するべきである。

村の命令であつたであらう。物質的に
も^{文化}精神的にも^{村人達の}自治や自給自足は必要
な生活~~形態~~形であつた。

要するに^{日本の}封建時代~~の~~何時の時代へ
も^{日本の}強く結束する。原因のあつて
も又その^村結束してゐることを認め
か、その結束は強いとよりの政治
力の前には弱いものであつたと
わつてゐるか、とかいふところを
あゝか。私には^村自治の結束の強い
ところを認める丈で充分であらう。
又上の政治力の下に^村自治の結束が

弱いと云ふるは当然なり。税も然
の事であらう。然し上の政治力が自
然の結末を目の仇に見ゆ必要が
一層必要であつたであらうか。村に
徒虎を作つて上の政治に反抗す。
格な捕合には村の結末を一つと
ちあうし、また、^{警察}警察に
うか、あらゆる政治の前に猫の
標に矢を射てあつて、只此の如く
の生活の幸福をわけておくれんて、
自然に何のうしろ目かある
その病を弱体化する必要ある

有也。

古代より
氏神
に
つ
い
て
福
を
お
し
て
の
は

徳
田
か
一
か
の
一
宋
て
あ
し
を
正
清

二
は
え
う
あ
う
う
社
局
の
所

海
港
の
~~ま~~
は
何
の
交
わ
り
を
な
す

50